

水深200メートルより深層に存在する海水が「海洋深層水」。地球上の海水のおよそ95パーセントは、この海洋深層水だという。沖縄周辺海域を流れる深層水は、なんと90051000年もの前の水だとか。

なると90051000年もの前の水だとか。取水されている深層水の特徴を利用して、新たな産業や雇用が生み出されている。海洋深層水で地域活性化をもくろむ久米島へ飛んだ。

★ 足立博司  
★ 田中三穂次

## 第2特集

# 海洋深層水のパワーに迫る

## Deep sea water in Kumejima

ガラス製風櫃から陽光が射し込む明るい養殖場。場長の仲道司さんが、大型水櫃の横らでオレンジ色のネットを引上げました。「ここにタネを植え付けます。これが海ぶどう(ツビレツタ)の圃場になります。植え付けて4、5日で芽が出ます。」

2枚のネットにスタンドイッチ状にはさまれた多数の海ぶどうの断片。仲道さんは、少し離れた水櫃へと移動した。「ここらが約1カ月後です。」水櫃からネットを引上げたのだが、もうネットは見えない。

沖縄県海洋深層水研究院内を走る深層水のパイプ(右)。左は研究所の2.3m口径、水深612mに汲み出されている取水パイプの北本。内径28cmのものが2本使われている。



612mの水深にもなみ6月22日を「久米島海洋深層水の日」と制定。「久米島海洋深層水ブランド」マークもつくられた。